

発問と応答でつくる学びの循環

高橋 平徳（愛媛大学 次世代人材育成拠点 教職総合センター 准教授）

講師略歴

専門は教員養成、生涯学習論、経験学習論、組織論（人的資源管理）。2002年早稲田大学教育学部卒業、2011年早稲田大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学。2016年北海道大学大学院経済学研究科博士後期課程修了。修士（教育学）、博士（経営学）。2011年千葉大学大学院看護学研究科特任助教、2014年札幌医科大学医療人育成センター特任助教を経て、2015年愛媛大学教育・学生支援機構講師、2020年同准教授、2024年より現職。著書に、内藤知佐子・高橋聖子・高橋平徳『看護を教える人が発問と応答のスキルを磨く本』（医学書院、2023）、高橋平徳・内藤知佐子編著『体験学習の展開』（医学書院、2019）などがある。

プログラム概要

本プログラム「発問と応答でつくる学びの循環」では、対話を通して学習を促進する方法として「発問」と「応答」について学びます。

まず、学生や新人、部下、後輩の成長において、対話が果たす重要な役割を確認します。続いて、その具体的な手法である「発問」と「応答」を紹介します。

「発問」とは、指導者が学習者に対して教育的な意図をもって問いかけることであり、思考の視点や枠組みを示し、自ら考える力を育てるものです。「応答」とは、学習者の発言や考えを受け止め、それに対して指導者が適切に反応を返すことで、安心して学び続けられる環境や関係性をつくる関わりです。

本プログラムでは、これらの手法について、ご自身の実践を振り返りながら理解を深め、指導の現場で活用できるヒントを持ち帰っていただくことを目指しています。

準備物・事前課題

なし

主な受講対象者

学生の教育はもちろん、組織の新人、後輩、部下の育成について、対話を通じた学習や関係性構築の促進について関心のある教職員。

到達目標

1. 対話による学習の促進の重要性について説明できる
2. 発問と応答という手法について説明できる
3. 発問と応答について具体的に述べることができる
4. 自身の実践に活用しようとする意識を高めることができる